日本修学旅行協会　2019年度版 教育旅行年報「データブック」

国内修学旅行の実態とまとめ―中学校

日本修学旅行協会は、中学校・高等学校の国内修学旅行のほか、海外および訪日教育旅行の実態調査、修学旅行の歴史などを掲載した教育旅行年報「データブック」を毎年発行している。その2019年度版の「国内修学旅行の実態とまとめ―中学校」の中から「重点を置いた活動」と「旅行先について」の調査結果を紹介する。

「重点を置いた活動」第1位――遺跡・史跡・文化財・寺社などの見学

表1　重点を置いた活動の回答実施率

（単位：件・％）

順位 前々回	順位 前回	順位 今回	活動内容	国立 件数	公立 件数	私立 件数	全体 件数	全体 実施率
1	1	1	遺跡・史跡・文化財・寺社などの見学	10	557	75	642	71.1
3	2	2	平和学習	5	184	33	222	24.6
2	3	3	伝統的町並みや建造物群保存地区の見学	3	193	18	214	23.7
4	4	4	伝統工芸などものづくり体験	0	144	16	160	17.7
6	6	5	職場訪問・職場体験	4	97	10	111	12.3
7	8	6	宗教体験（坐禅、法話、写経など）	2	87	18	107	11.8
8	5	7	ミュージカル、演劇などの鑑賞	0	98	7	105	11.6
5	7	8	博物館などの見学	1	90	4	95	10.5
11	10	9	伝統文化・伝統芸能や祭り体験（香道・舞妓・着付け・三味線・ペーロン・エイサーなど含む）	2	61	11	74	8.2
9	9	10	産業や産業遺産の見学	0	66	2	68	7.5
10	11	11	自然や野外活動体験（無人島体験・洞窟体験など含む）	0	42	15	57	6..3
14	15	12	防災学習・震災学習	1	44	5	50	5.5
13	13	13	いなか暮らし体験	2	42	4	48	5.3
12	12	14	歌舞伎・文楽・能楽などの鑑賞	1	40	6	47	5.2
19	14	15	国際交流（外国人、留学生との交流）	1	33	8	42	4.7
16	17	16	マリンスポーツ（ダイビング・シュノケリングなども含む）	0	30	4	34	3.8
15	16	16	その他のスポーツ（ラフティング、カヌー、フィッシング･熱気球、トレッキング、乗馬など）	2	28	4	34	3.8
17	18	18	学校見学（大学、専門学校など）	1	28	3	32	3.5
17	21	19	環境学習体験	0	18	11	29	3.2
20	20	20	農業	2	19	4	25	2.8
23	22	21	美術館などの見学	0	21	2	23	2.5
20	19	22	料理・食品加工体験	1	18	3	22	2.4
24	24	23	漁業（釣り・地引網を含む）	1	16	4	21	2.3
25	23	24	販売・商業体験	0	9	1	10	1.1
20	25	25	スキー・スノーボード・スケートなど	0	6	0	6	0.7
27	27	26	コンサート・音楽の鑑賞	0	1	3	4	0.4
28	29	27	酪農	0	2	0	2	0.2
26	26	27	ボランティア体験	0	1	1	2	0.2
30	28	29	林業	0	0	1	1	0.1
28	30	30	介護福祉体験	0	0	0	0	0.0
			その他	0	0	0	0	0.0
			合計	39	1,975	273	2,287	

※複数回答（ただし上位三つまで）
※その他には「クラス別活動」や「調査研究」「自主研修」「社会体験」などが含まれる。

◆重点を置いた活動

今回の調査結果においても旅行先の第1位は京都府であり＝表2、その結果、表1をみると「遺跡・史跡・文化財・寺社などの見学」が連続第1位となっている。前回の28・1％と同様、今回も28・1％であった。

2位「平和学習」、3位「伝統的町並みや建造物群保存地区の見学」、4位「伝統工芸などものづくり体験」は、前回と順位の変動がなかった。「宗教体験（座禅、法話、写経など）」が前回8位から6位に上がった。「防災学習・震災学習」が前回15位から12位に上がった。全体的には大きな変動はなかった。

表1の修学旅行で重点を置いた活動が何であったかを割合で表わし「修学旅行で重点を置いた活動の分類別件数・比率」としてグラフ1に示した。

その中で、史跡・町並み・産業遺産・博物館などの見学などの歴史学習に重点を置くものが44・6％（前回調査45・0％）と毎年1位を占めている。ミュージカル・演劇・歌舞伎・文楽・能楽などの鑑賞、伝統文化・伝統芸能や祭り体験、美術館などの見学、コンサート・音楽鑑賞などの芸術鑑賞・体験が10・9％（同11・0％）、平和学習が9・7％（同10・5％）、伝統工芸・料理・食品加工などのもの作りが7・9％（同7・2％）となった。また、職場訪問・職場体験、販売・商業体験などのキャリア体験が5・1％（同5・2％）、宗教体験（座禅、法話、写経など）は4・7％（同3・9％）、野外活動・環境学習などの自然・環境学習の分野が3・6％（同3・6％）、農業・林業・酪農・漁業・いなか暮らし体験などの生業・くらし体験が3・6％（同3・3％）、スポーツ体験が3・1％（同3・1％）となった。

◆旅行先について

表2のカウント方法は、滞在時間に関係なく、例えば滞在が半日であっても、2日であっても、初日と3日目であっても、行った旅行先を「1」としている。

今回調査では上位については大きな変動は見られない。3位までは前回調査と同じ順位になった。大きな変動として、広島県が前々回10位から前回8位、今回7位、静岡県が前回22位から今回18位に上がったことがあげられる。

また、震災の影響があった熊本県は前回13位から今回15位とやや下がったが、岩手県は前回15位から今回14位と健闘した。

グラフ1　重点を置いた活動の分類別件数・比率

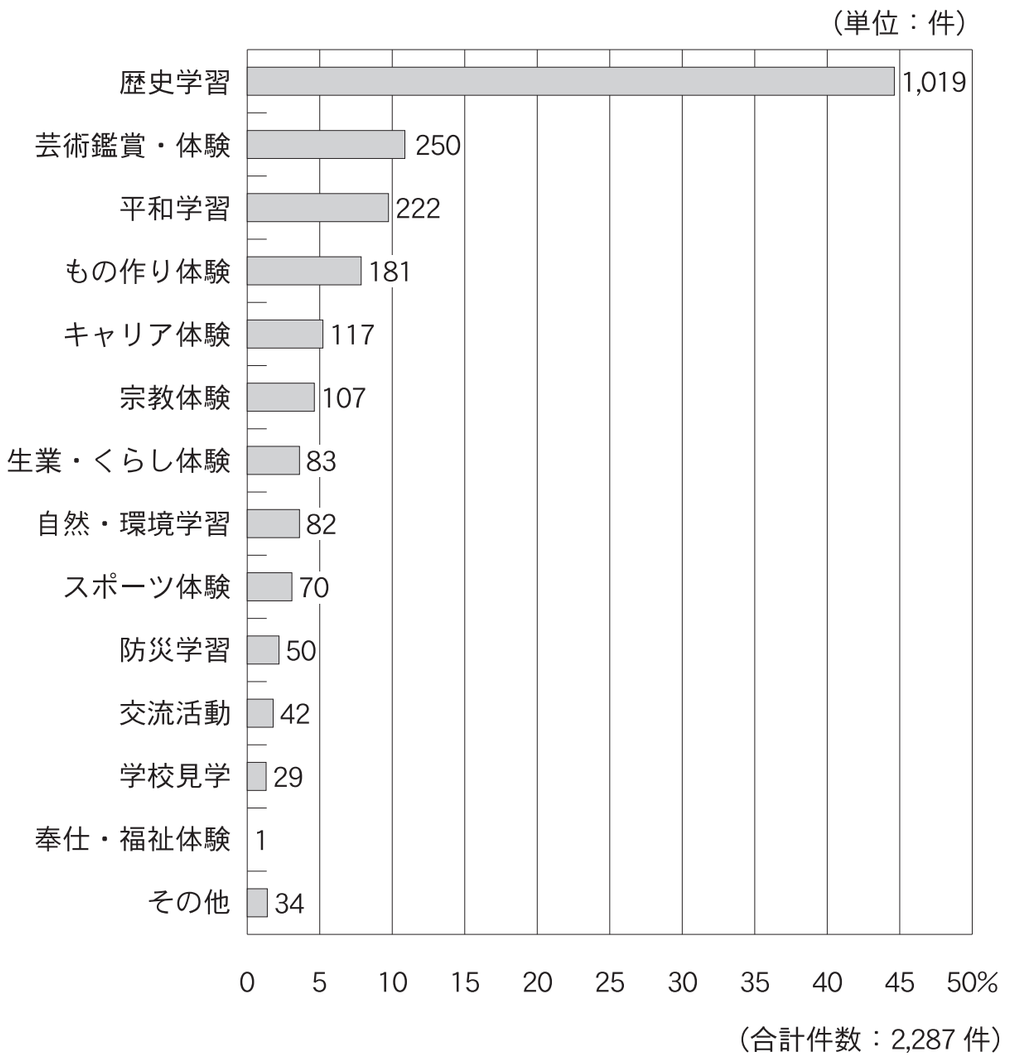

表2　旅行先上位20（都道府県別）

（単位：件・％）

順位 前々回	順位 前回	順位 今回	旅行先	件数	構成比
1	1	1	京　都	450	23.1
2	2	2	奈　良	381	19.6
3	3	3	東　京	206	10.6
5	5	4	大　阪	179	9.2
4	4	5	千　葉	175	9.0
6	6	6	沖　縄	90	4.6
10	8	7	広　島	60	3.1
8	9	8	長　崎	53	2.7
7	7	9	神奈川	51	2.6
11	11	10	兵　庫	41	2.1
8	10	11	福　岡	37	1.9
12	12	12	北海道	27	1.4
15	18	13	長　野	20	1.0
14	15	14	岩　手	17	0.9
16	13	15	熊　本	17	0.9
19	17	16	佐　賀	16	0.8
23	16	17	鹿児島	14	0.7
21	22	18	静　岡	12	0.6
17	14	19	滋　賀	10	0.5
13	21	20	山　梨	9	0.5

※総件数は 1,945 件
※滞在時間に関係なく訪問した都道府県をカウントした。
（旅行中、複数回滞在してもカウントは１とした）